

整理番号

D-2-1

436

標 題 名

明治四十二年度業務功程報告

著 者 名

発行者名

福岡県立農事試験場

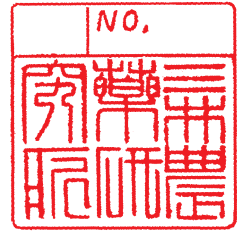
発 行 年

明治42年（1909年）

製作年月

令和5年5月

明治四十二年度業務功程報告



福岡縣立農事試驗場

明治四十二年度業務功程報告

目次

種藝之部	一
果樹之部	一二
畜產之部	一五
家禽之部	一六
蠶業之部	二三
昆蟲病理之部	三三
分扮之部	三四
紅茶之部	三四
農區之部	四三
雜之部	六二

明治四十二年度福岡縣立農事試驗場業務功程報告

種藝之部

一、氣象ノ概要

本年度夏作初季ハ陰霖ノ天候連續シ土用入前ヨリ天候回復シ作況頗ル良好ノ狀態ニアリシガ成熟ノ初季ヨリ霖雨陰風吹續シ收穫期ニ至ル迄極メテ不順ノ間ニ經過セリ又冬作初季乃チ前年度ノ末ハ氣候漸チ適順作況良好ナリシガ成熟ノ初季過度ノ乾燥ヲ來シ末季ハ降雨頻繁ニナリ麥作ハ多少ノ被害ヲ受ケタリ

一、水稻作種類試驗

粳稻二十七種糯稻十種ニツキ試驗セリ最近五ケ年ノ平均收量ニヨレバ早稻ハ郡益ノ二石三斗七舛ヲ第一位トシ荒木都賀錦之レニ次キ中稻ハ御成所ノ二石六斗一舛七合ヲ第一トシ雄町天狗之レニ次キ晚稻ニ於テハ青撰ノ二石八斗五舛一合ヲ最トシ神力目利之レニ次キ糯稻ニ在リテハ中田ノ二石四斗三舛九合ヲ最トス

一、挿秧法試驗

挿秧ノ正歪ハ生育收量及勞力ニ如何ナル關係アルカヲ知ラントスルモノニシテ五ケ年平均ノ成績ニヨリテ縱橫正條植ノ二石六斗六舛二合ヲ他ニ比較スレハ縱正條植ニ對シテハ八舛五合不正條植ニ對シテハ一斗三舛八合ノ增收ナリ

一、深淺耕耨對施肥用量試驗

耕土深淺ノ得失及施肥用量ヲ知ラントスルモノニテ五ケ年平均ノ

成蹟ニヨレハ八寸耕肥料多量區ハ二石五斗四舛九合ニシテ之レヲ六寸耕肥料多量區ニ比シ六舛五合三寸耕肥料多量區ニ比シ一斗六舛九合ノ增收ニ當リ又八寸耕肥料少量區ノ二石四斗七舛一合ニシテ之ヲ六寸耕肥料少量區ニ比シ八舛九合三寸耕ノ肥料少量區ニ比シ一斗九舛一合ノ增收ニ當リ何レモ深耕ノ有利ナルヲ示セリ又肥料多量區ト少量區トノ差ハ八寸耕ニ於テ七舛八合六寸耕ニ於テ一斗二合三寸耕ニ於テ一斗一舛ニシテ深耕ハ淺耕ニ比シ肥料ヲ増加スルノ要アルヲ見ル

一、綠肥効力試驗

綠肥ノ普及ニ伴ヒ其効力ヲ命肥ニ比シ經濟上ノ得失ヲ知ラントスルモノニシテ五ヶ年平均收量ニヨレハ最多收量ハ青刈大豆區ノ二石六斗三舛一合ニシテ紫雲英區ノ二石五斗七舛一合之レニ次キ大豆粕區ハ二石五斗四舛九合ニシテ最モ劣レリ綠肥ノ經濟上極メテ必要ナルヲ知ルニ足ル

一、種子變換試驗

本場ニ於テ多年繼續栽培セル種子ト新ニ取寄セタル種子トノ優劣ヲ知ルニアリ本年ノ成蹟ニヨレハ本場產ニ比シ減收セルコト企救郡產白玉一舛五合糸島郡產万作三舛七合岡山縣產雄町一斗四舛三合兵庫縣產神力二斗五舛佐賀縣產目利一舛一合ナリトス蓋シ風土ノ未タ適應セサルニ由ルナラン

一、硫酸安母尼亞追肥試驗

本年ノ新設ニ係ル硫酸安母尼亞ヲ追肥トナスニ適當ナル時期ヲ知ラントスルモノニシテ標準區及各除草期穗孕期ノ六回ニ分施セリ其成蹟ニヨレハ穗孕期ニ施セルモノ收量最モ多ク三石餘ニ及ブモ米質劣惡四番除草前後最モ適當ナルガ如シ

一、藺跡作試驗

本縣藺作地方ニ於テハ藺跡ハ概テ休閑セシメ稻作ヲ行フコト稀ナリ蓋シ岡山縣ニアリテハ土用初メニ收刈シ本縣ニアリテハ土用半バ過キニ於テ收刈シ從テ其間十日ノ差ヲ生シ且勞力ノ均衡上止ムヲ得ザルモノアルガ如シ然レドモ藺作跡ハ肥料ノ殘存極メテ多キヲ以テ之レヲ利用スルノ可否ヲ知ラントスルモノニシテ六ヶ年間ノ平均收量ニヨレバ二石六斗六升七合ヲ得普通作ニ比スレバ僅カニ七升三合ノ減收ヲ來セルノミ以テ藺作跡ニ於テ殘存肥料利用上稻作ノ必要ナルヲ觀ル

一、豊凶考照試驗

早中晩各二種宛ヲ撰拔シ生育期中ノ狀況ヲ調査シ之レヲ前年及平年ニ比較シ以テ當年ノ豊凶ヲ知ラントスルモノナリ即チ早稻ハ二石〇九升三合ニノ前年ニ比シ四斗四升二合平年ニ比シ三升六合ノ減中稻ハ二石三斗九升七合ニノ前年ニ比シ二斗八升九合ヲ減シ平年ニ比シ一斗二升四合ヲ増セリ晩稻ハ二石九斗七升七合ニノ前年ニ比シ四升三合ヲ減シ平年ニ比シ四斗五升一合ヲ増加セリ以テ本年ハ晩稻ノ成績佳良ナリシヲ知ル

木框試驗

一、石灰窒素肥効試驗

第一區 硫酸安母尼亞、過磷酸石灰、硫酸加里

第二區 硫酸安母尼亞、磷酸曹達、炭酸加里

第三區 石灰窒素、過磷酸石灰、硫酸加里

第四區 石灰窒素、磷酸曹達、炭酸加里

ノ四區ニ分チテ肥料ヲ配合シ硫酸安母尼亞ト石灰窒素トノ肥効ヲ比較シ且ツ兩者ニ對スル他ノ肥料ノ配合如何ヲ試驗セシニ石灰窒素ノ肥効ハ硫酸安母尼亞ニ劣リ硫酸安母尼亞ハ之ニ據基性肥料ヲ配合シタル場合ニ生育可良ニシテ石灰窒素ハ之ニ反シ酸性肥料ヲ配合シタルモノ肥効優良ナリキ

二、窒素肥料比較試驗

紫雲英、緋粕、硫酸安母尼亞、蠶豆、生大豆、大豆粕ノ六種ノ窒素肥料ヲ

取リ其窒素ヲ平等ニシ磷酸及加里ハ過磷酸石灰及硫酸加里ヲ以テ其不足ヲ補ヒ各區三要素ノ量ヲ一定シ其肥効ヲ比較セシニ硫酸安母尼亞ノ肥効最モ優良ニシテ緋粕、大豆粕等之ニ次ギ紫雲英ハ其肥効最モ劣等ナリキ

三、石灰連用試驗（初年）

無石 灰區

石灰廿五貫區

同 五十貫區

同 百貫區

同 二百貫區

同 三百貫區

ノ六區ニ分チ各區皆一樣ニ反當窒素一貫五百匁ノ割合ヲ以テ大豆粕ヲ單用セシニ其結果石灰百貫一區迄ハ漸次其收量増加セリ

四、滿俺ノ刺激作用試驗

反當窒素二貫五百匁、磷酸二貫匁、加里二貫匁ノ割合ニテ一般肥料ヲ施シ次ノ四區ニ分チテ鹽化滿俺ヲ施セリ 但シ稻ノ草丈一尺位ノ時各區一時ニ鹽化滿俺全量ヲ施ス

無滿俺區

鹽化滿俺五百匁區

鹽化滿俺一貫匁區

鹽化滿俺二貫匁區

其結果何レモ其刺激作用ノ効果明ナラズ

五、沃度加里刺激作用試驗

十瓦區

廿瓦區

五十瓦區

百瓦區

百五十瓦區

二百瓦區

ノ六區ニ分チ反當窒素二貫五百匁、磷酸二貫匁、加里二貫匁ノ割合ニテ一般肥料ヲ施シ各區表記ノ量ノ

沃度加里ヲ草丈一尺位ノ時一回ニ施用セリ其結果滿俺ノ場合ヨリモ稍其刺激ノ効果大ナルガ如シ

六、有機質肥料反應試驗 大豆粕及鯀粕ノ各窒素質肥料ニ配合スルニ次ニ示ス如ク塩基性及酸性肥

料ヲ配合シ以テ水田ニ於ケル両者ノ肥料反應ヲ決定セントセリ

大豆粕、過磷酸、硫酸加里區

同 磷酸曹達、炭酸加里區

鯀粕、過磷酸、硫酸加里區

同 磷酸曹達、炭酸加里區

其成績ニヨルニ大豆粕ハ之ニ磷酸曹達及炭酸加里ノ如キ塩基性肥料ヲ配合セル場合其肥効優良ニシテ鯀粕ハ全然之ニ反スルヲ知ルヲ得タリ

七、磷酸肥料比較試驗 過磷酸石灰、磷酸曹達、骨粉、米糠等四種ノ磷酸肥料ニツキ其肥効ヲ比較

セシニ過磷酸石灰其肥効最モ優良ニシテ骨粉之ニ次ギ米糠ハ最モ劣等ニシテ其收量却テ無磷酸區ニ劣レリ

八、烟草ノ稻作ニ對スル肥効試驗 烟草製造ノ廢物タル骨及屑等ヲ肥料トシテ施用スル際ニ如

何ナル肥効アルヤヲ決定スルタメ刻烟草ヲ粉末トシテ施用セシニ其結果大ニ不良ニシテ其儘肥料トシテ水田ニ施用スルヲ不適當ナルヲ証明セリ

九「ニコチン」ノ稻ニ對スル作用

烟草ノ有毒成分タル「ニコチン」ガ作物ニ如何ナル影響ア

ルヤヲ決定セント欲シ

普通肥料區

「ニコチン」二万分ノ一加用區(土壤ノ目方ニ對シ)

同 二万分ノ一加用區

ノ三區ニ分チ試験セシニ其結果「ニコチン」ハ植物ニ有毒作用ヲ呈スルコナク却テ其加用ニヨリ生育優良ナルヲ見タリ

麥作

一、裸麥種類試験

最近五ケ年間ノ平均收量ニヨレハ拾七ノ一石八斗六合ヲ最多トシ三島仙台竹下

等順位セリ

一、大麥種類試験

最近五ケ年間ノ平均收量ニヨレハ淀橋ノ二石七斗六升八合ヲ最トシゴールデンメロン之レニ次ゲリ淀橋ハ收量多キモ稈弱ク倒伏ノ恐アリゴールデンメロンニ及バズ

一、小麥種類試験

五ケ年平均收量ニヨレハ多古ノ一石五斗三升ヲ第一トシ江島宮崎之レニ次ゲリ尤モ江島ノ外ハ葉澁病ニ罹リ易キ欠点アリ

一、主要肥料分量試験

菜種油粕乾鰯鯪粕大豆粕ノ四者ニ就キ其得失ヲ知ラントスルモノニシテ四

多年平均成績ニヨレハ各肥料共施肥量多キニ從ヒ收量増加スルモ之レヲ概括スレバ大豆粕多量區ノ二石五合ヲ第一トシ鯨粕多量區大豆粕中量區乾鰯多量區鯨粕多量區等順位セリ

一、稻跡殘遺肥料試驗

水稻ニ施用セル綠肥ハ後作ニ如何ナル影響ヲ及ホスカヲ知ラントスルモノニシテ其成績左ノ如シ

三十八年大麥作

四十年小麥作

四十一年裸麥作

大豆粕區

一、六四三

〇、八四九

一、九六三

青刈大豆區

一、八三三

〇、九三五

一、九六三

紫雲英區

一、九五八

〇、八九一

二、〇一八

一、稻深耕跡作効力試驗

深耕ノ後作ニ及ホス關係ヲ知ラントスルモノニシテ其成績左ノ如シ

三十八年麥作

三十九年菜種作

四十年裸麥作

四十一年大麥作

三寸耕

一、二四七

〇、九一三

一、四〇〇

二、五二三

六寸耕

一、四八二

〇、九八七

一、三二三

二、七二五

八寸耕

一、五二二

一、〇四三

一、五四八

二、六三五

一、葉澁病豫防試驗

窒素成分ノ多寡施肥期ノ早晚播種量ノ多寡播種ノ早晚ガ葉澁病ニ如何ナル關

係アルカヲ知ラントスルモノニシテ四ヶ年間ノ成績ニヨレハ窒素成分ノ多キモノ施肥期ノ早キニ過キ若

シタハ晩キニ過グルモノ播種期ノ晩キモノ播種量ノ少ナキモノ等ハ被害多シ

一、黑穗豫防試験

農商務省ノ命ニヨリ施行スベキモノニシテ麥ノ黑穗ニ對シ冷水温湯浸法ノ効果

ヲ知ルニアリ裸麥及小麥ニ就キ行ヒシ所ニヨレハ其効果著シキノミナラズ班葉病ニ對シテモ亦有効ナリ而シテ二年平均收量ニヨレハ豫防區ハ無豫防區ニ比シ裸麥ニアリテハ三舛二合小麥ニアリテハ四舛三合ノ增收ナリ

一、豐凶考照試験

裸麥大麥小麥各二種宛ニ付キ其生育中ノ狀況ヲ調査シ以テ當年ノ豐凶ヲ豫知セ

ントスルモノニシテ本年裸麥ノ平均收量一石九斗六舛八合ヲ前年ニ比シ二舛七合半年ニ比シ二斗三舛八合ノ増加又大麥ノ平均收量ハ二石六斗四舛五合之ヲ前年ニ比シ七斗四舛半年ニ比シ五斗三舛八合又小麥ノ平均收量一石六斗六舛六合之ヲ前年ニ比シ一舛八合半年ニ比シ一斗六舛三合ノ增收トナレリ

榮種作

一、摘心試験

摘心ノ可否ヲ知ラントスルモノニシテ本年ノ創設ニ係ル其成績ニヨレハ摘心區ハ無摘

心區ニ比シ開花ノ始メハ五日許リ晩レシモ花ノ終リハ同シク收穫期亦同時ナリキ而シテ收量ニ於テハ二斗八舛ノ增收アリキ

一、株間試験

適當ナル株間ヲ知ラントスルモノニシテ本年ノ成績ニヨレバ二尺區最良ニシテ一尺五寸區及二尺五寸區ニ比シ一舛五合ノ增收アリ

紫雲英作

一、種類試驗

筑後晚生ハ開花期最モ晚キノミナラヌ收量最モ多カリキ

一、選種試驗

菌核菌ヲ除去シ得ル程度並ニ收量ニ如何ナル關係アルカヲ知ラントスルモノニシテ二ケ年間ノ成績ニヨレハ菌核菌ハ水選ニテ大部分ヲ除去シ得ルモ收量ニアリテハ比重一、一〇ノ塩水ヲ用ヒタルモノ最モ多ク三百十八貫餘ニ上レリ

蘭 作

一、苗仕立方試驗

六ケ年間ノ成績ニヨレハ畑上苗ハ總收量ニ於テ水田苗ニ優レルノミナラズ優品ヲ産スルコト多シ

一、粟種類試驗

粳十種糯參種ニツキ試驗シタル成績中最良好ナルモノハ粳ニ於テハ卷筆二石五斗三舛五合、白玉二石二斗八舛ニシテ對州國分之ニ次ギ糯ニ於テハ白玉一石六斗〇五合鶯一石五斗九舛ニノ黒糯之ニ次ク概シテ本年ノ粟作ハ平年作以下ナリキ

一、爪哇薯種類試驗

五種類ニツキテ試驗シタル成績中收量ノ最多ナルハ、アーリーローズ、ノ三百六十貫、スノーフレーキ、ノ二百三十五貫ニシテ柳河白、リバーバーパンク、ホワキトエレフハントオプヘブロン等順次之ニ次ク

一、里芋種類試驗

一年芋早生芋在來芋縞芋ノ四種ニ就キテ試驗シタル成績中在來種ノ四百九十八

貫稿芋、四百二十九ベニノ早生芋、一年芋之ニ次ゲリ

一、葱頭種類試驗

赤色種、黃色種、白色種ノ三種ニ就テ試驗シタル成績ニヨレハ最良ナルハ赤色種ノ六百四十二貫ニシテ黃色種白色種此ニ次ゲリ

一、葱頭挫折試驗

本試驗ハ莖部ヲ挫折スルモノ及挫折兼球莖ヲ露出セシモノヲ標準區ニ比シ試驗セシニ標準區ノ六百八十四貫六百匁ニ對シ挫折區ハ五百七十九貫六百匁挫折兼露出區ハ五百四十一貫八百匁ニシテ標準區ノ優良ナル点前年ト一致セリ蓋球莖強大ニシテ勢力強キハ適宜挫折シテ勢力ヲ殺クノ必要アル可シト雖_ニ然ラサル場合ハ寧ロ放任スルヲ可トスルガ如シ

一、葱種類試驗

下仁田、千住、九條、秋田、岩槻ノ五種類ニツキテ試驗シタル成績中收量順位ハ九條葱ノ二百五十八貫ヲ第一トシ之ニ次グハ秋田、下仁田、岩槻、千住トス

一、茄子木灰加用試驗

本畑ニ於ケル木灰加用ノ多少ニヨリ生育及結果ノ相違ヲ試驗セシニ收量最多ナルハ一株ニツキ二合加用シタルモノニシテ反當五百〇七貫一百二十匁ノ收量アリ之ニ次グハ一合五匁區、トス蓋茄子ハ往々立枯病ニ罹リ易キヲ以テ苗床ニ於テ豫防スルノ要アルハ勿論ナルモ本畑移植ノ際ニ於テモ木灰加用ハ極メテ切要ナルヲ觀ル

果樹之部

參拾九年定植ノ果樹本年ニ至リ結實セシ種類及其特徵左ノ如シ但前年度分ヲ參照ス可シ

桃

一、アーリーシルバー (Early Silver) 英國ノ原産ニシテ大果々形扁圓ニ近ク果皮乳白色ニシテ陽面潮紅セリ果肉白色ニシテ多漿溶ルガ如キ離核種ナリ八月上旬收穫シ一ケノ重量三十五匁、

一、新水蜜桃 果形長圓ニシテ大サ中果皮淡黃ニシテ僅カニ潮紅ス肉ハ黃白色ナルモ核ニ接スル部ハ紅色ヲ呈スル離核種ナリ多漿ニシテ風味佳良七月下旬乃至八月上旬成熟シ一ケノ重量三十匁ニ達ス

一、サルウエー (Salway) 英國ノ原産ニシテ大果圓形縫線著ク分明シ半面肥大ノ發育ヲナスモノ多シ果皮乳白色ニシテ暗赤色ノ班アリ果肉黃色ニシテ緊リ甘味多キ離核種ナリ

葡萄

一、グリーンマウンテン (Green Mountain) 樹ハ褐色ニシテ節稍長ク接續的卷鬚ヲ有シ葉莖ハ綿毛ヲ被ル葉ハ大ニシテ裂目ナケレドモ稀ニ淺ク裂ケタルモノアリ葉裏綿毛ヲ被リテ白色ヲ呈シ樹性强健ナリ果ハ中穗ニシテ果粒中位熟スルキハ黃白色トナル甘味多シ

一、キヤナダ (Canada) 樹ハ前者ニ似タルモ葉ハ殆ド圓ニ近ク尖端鋭尖ナリ樹性强健ニシテ豐産果實

ハ中穂中粒ニシテ熟スレハ黑色ヲ呈シ白粉ヲ被ル果皮薄ク肉柔カニシテ甘味多シ八月上旬成熟ス

一、ハーバート (Herbert) 樹ハ淡褐色ニシテ節稍長ク葉ハ大ニシテ稍厚ク裂目無キモ稀ニハ淺キ裂

目ヲ有スルモノアリ葉裏少シク綿毛ヲ帶ビ樹性强健豐産ナリ果穂ハ大ニシテ岐肩アリ顆粒圓大ニシテ熟スレハ紫黑色ヲシ呈シ白粉ヲ被ル皮ハ厚ク肉ハ柔カニシテ酸味少ナク糖分ニ富ム八月上旬成熟ス

一、ナイアガラ (Niagara) 樹ハ白褐色ニシテ節長ク綿毛ヲ被リ葉莖長シ葉ハ大ニシテ厚ク稀ニ廣キ

裂目ヲ有スルモノアリ葉裏綿毛ヲ被リテ白色ヲ呈ス樹性强健ニシテ生育佳良果ハ大穂中粒ニシテ熟スレハ青黄色ヲ呈シ白粉ヲ被ル果肉柔カニシテ皮厚ク品位稍前者ニ劣ル八月中旬成熟ス

一、ベリー (Bulley) 樹ハ赤褐色ニシテ節稍長ク葉莖赤クシテ綿毛ヲ被リ葉ハ大ニシテ厚ク稀ニ淺

キ廣キ裂目ヲ有スルモノアリ樹性强健ニシテ生長旺盛果穂巨大ニシテ岐肩僅少殆ど同筒形ヲナス顆粒大圓ニシテ熟スレハ濃黑色ヲ呈シ白粉ヲ被ル皮厚ク肉緊リ甘味ニ富ム八月下旬成熟ス

梨

一、早生長十郎 長十郎ノ早生ナルモノナリ

一、長十郎 樹性强健豐産ニシテ廣ク栽培セラル、品種トス果實ハ大形ニシテ圓若シクハ稍扁圓ナル

モノアリ果梗ハ細長果皮ハ黃褐色ニシテ褐色ノ細斑アリ甘味ニ富ミ多漿肉質緻密九月上旬成熟シ壹個ノ重量九十匁内外ニ達セリ

一、泰平

太平トモ書シ「オイラン」トモ稱ス樹性强健豊産ナルコト前者ト伯仲ス果實ハ扁圓若シクハ稍圓ナルモノアリ果梗稍短カク褐色ノ斑点粗大ナルヲ以テ易前者ト區別セラル九月上中旬成熟ス壹個重量百十匁餘ニ達セリ

一、明月

加賀ノ産ニシテ果ハ橢圓形ヲナシ肉梗有蒂ナリ果皮ハ黃褐色ニシテ黃色ノ細点アリ肉質ハ緻密ニシテ白色、甘味ニ富ミ多漿ニシテ品質優良稍後熟セシムルヲ可トス九月下旬成熟シ壹個重量百匁内外ニ達セリ

一、廿世紀

新太白ニ酷似ス或ハ新太白ト同一物トモ稱セラル此兩者ノ間別ニ區別スルノ必要ナシト雖強ヒテ區別セハ廿世紀ハ其果形長十郎ニ類シ新太白ノ果形ハ太白ニ類スルト云ハソノミ

其他世界一上花金世界大古河早生赤キーファ一等結果セシモ八月上旬風雨ノ災害ニヨリ悉ク落花セリ

柿

一、江戸一

果實ハ大サ中若シクハ大ニシテ果皮ハ帶紅黃色ニシテ頭末ニ弧若シクハ輪狀ノ黒線アリ肉質堅ク甘味稍少ナキモ豊産ナリ

畜産之部

一、牛馬 本場勞役兼繁殖用トシテ飼育セルハ牝牛貳頭(小値賀産)牝馬奉天号(濠州産)牝馬第三奉天号ノ三頭ニシテ牛馬通計六頭ナリ

本場産牝馬新野号ハ枯葉病試験地ヘ拂下タリ

一、繁殖用豕 本場ニ分娩セル仔豕ハ凡テ縣下ニ配布セリ親豕ハ二種ニシテパークシヤー牝六頭牡二頭ヨークシヤー牝二頭牡一頭ヨシテ通計拾壹頭ナリ

四十二年度ニ拂下タル仔豕類數左ノ如シ

種 名	拂 下		屠 殺 數
	牝	牡	
パークシヤー	一四	一三	二
ヨークシヤー	一四	一一	三
計	二八	二四	五

廢豕ノ利用トシテ ハム ペーコン ノ製造ヲ續行セルニ品位益向上シツ、アリ

家禽之部

本場飼養ノ種屬ハ左ノ拾壹種ナリ

雞 屬

一、アンダルシヤン

一、ミノルカ

一、褐色レグホーン

一、白色レグホーン

一、白色ブリマウスロツク

一、漣ブリマウスロツク

一、名古屋コーチン

一、バフコーチン

吐綬雞屬

一、青銅色吐綬雞

水禽屬

一、北京鶩

一、白色支那鶩

一、種禽用雛及種卵ノ配布

種屬別

種卵數

本年度内ニ配布セシ數左ノ如シ

雞

二〇七三

四五七

吐綬雞

一一

……

鷺

……

六七

鷺

九三

一三

一、飼料

本年度ニ於テ使用セシ飼料ノ種類ハ左ノ如シ

(1) 穀菽類

大麥

小麥

粟

大豆

玄米碎

黍

(2) 糟類

米糠

米芽

(3) 動物質

鰯

タツクリ

焼鮎

金龜子

イナゴ

(4) 青菜類

白菜

菘菹

一、家禽管理並ニ飼料給與時間

朝ノ作業順序

(1) 給水

(3) 鶏舎ノ開放

(2) 飼料ノ調製

(4) 雛舎ノ開放

(5) 朝ノ給與

(6) 雛鶏ノ給菜

(7) 雛箱ノ掃除

(8) 雛鶏ノ給餌及給菜

(9) 鶏舎ノ糞掃除

夕ノ作業順序

(1) 雛箱ノ敷藁及敷藁等ノ取換

(2) 雛鶏ノ就寢

(3) 親鶏ノ就寢

(4) 食器ノ洗滌

一、飼料給與時間

飼料給與時間ハ左ノ標準ニヨリ給與ス

親

朝餌

夏期ハ日出后一時間以内 冬期ハ日出后貳時間以内

晝餌

正午ヲ中心トシテ一時間以内

夕餌

日没前貳時間以内

但シ練餌ヲ給スル場合モハ夕餌ヲ稍早クシ日没前約一時間前後ノ時刻ニ揚リ餌（粒餌ノ少量ヲ給スルヲ揚リ餌ト稱ス）ヲ給ス

雛 禽

軟餌飼養ノ場合

夏期ハ六回其ノ他ハ五回

硬餌飼養ノ場合

夏期ハ五回其ノ他ハ四回

藥類給與時間

親禽

二回ノ時ハ午前十時及午後三時一回ノ時ハ午後三時

一 雛鶏ノ發育比較試驗

育雛法ニ給水育ト無給水育トノ二方法アリ其ノ何レヲ採ルベキカヲ試

驗セシニ孵化後五週間ノ飼養ニ於テ給水育ハバフコーチン四一、ヌナゴヤユーチン四〇、四ヌ褐色レグ
ホーン四一、三ヌノ体量増加ニ對シ無給水育ハバフコーチン二四、ヌナゴヤユーチン二一、四ヌ褐色レ
グホーン二〇、一ヌノ体量増加ニテ給水育無給水育兩方法ノ平均ハ給水育ニテ四〇、九ヌ無給水育ニテ
二一、八三ノ体量増加ヲ示ス故ニ前年貳回ノ試驗ト對照シ給水育飼養法ノ合理的飼養法タルコトヲ認メ
得タリ

一、育雛ト動物質飼料効力試驗

育雛上動物質飼料ヲ給與スルト否トハ發育上如何ナル結果ヲ來

スベキカヲ試驗セシニ体量相均シキ孵化後貳拾四日目ニ褐色レグホーン種十一雄七雌宛甲乙二群ニ分チ
一團月貳拾參日ヨリ八月二十三日迄四ヶ月間之對照試驗ヲ行ヒシニ動物質飼料ヲ給與セシモノハ縮及田作
リ六、四二〇貫ト玄米碎、大麥小麥粃粟大豆等三四、〇〇六貫トヲ食シ増体量五、二一二貫ニシテ動物

質飼料ヲ給與セザルモノニアリテハ同一飼料二四、九三八貫ヲ食シ増体量二、三六一貫ニ達セリ而シテ前者ハ八月十三日初産シ後者ハ八月二十三日ニ初産セリ其ノ全部産卵期ニ達セシハ前者ハ九月二十日ニシテ後者ハ十月廿五日ニ遅延セリ右ノ成績ニヨレハ動物質飼料ノ効果大ナルヲ認ム

因ニ動物質ヲ給セシモノ試験期間ニ於ケル食餌量多キハ動物質給與ニヨリテ發育ノ迅速ニ伴フ自然ノ結果トス

一、人工肥滿法試験

前年度ニ於ケル人工肥滿法試験ハ畧ボ有利ナルヲ認メタルヲ以テ本年度ニ於テハ更ニ人工強制肥滿法ノ試験ヲ加エ之レガ試験ヲナシ其有利ナルヲ認メ得タリ即チ第一回ニ於テハ同一價格ノ飼料ニヨリ一日平均四分五厘ノ増加ヲ見第二回即チ前年度ニ於テハ (1) 普通飼料ニ於ケル運動禁止 (2) 全上ニ於ケル暗室飼養 (3) 軟餌飼料ニ於ケル運動禁止 (4) 全上ニ於ケル暗室飼養以上四者及 (5) 普通飼養即チ標準號ノ各號拾日間ニ於ケル結果ヲ飼料代金拾錢ニ對スル体重増加量ニ換算セシニ (1) 六十六匁三分 (2) 五十八匁九分 (3) 八十一匁三分 (4) 七十二匁一分 (5) 五十四匁七分トナリ人工肥滿法ノ有利ナルヲ確メ得本年度ノ試験ニ於テモ (1) 普通區ニ於ケル運動禁止 (2) 普通飼料ニ於ケル暗室飼養法 (3) 軟餌飼料ニ於ケル運動禁止法 (4) 軟餌飼料ニ於ケル暗室飼養法 (5) 強制肥滿法ノ各號拾日間ニ於ケル結果ヲ飼料代金拾錢ニ對スル体重増加量ニ換算セシニ (1) 七七匁一 (2) 六十二匁 (3) 百三十四匁八分 (4) 百三十六匁五分 (5) 百九十二匁五分標準前六十六匁六分ノ成績ヲ得人工肥滿法ノ有利ナルヲ認定

シ得タルト同時ニ強制肥滿法ノ更ニ有利タルヲ知り得タリ然レドモ強制肥滿法ハ唯一回ノ試験ナルヲ以テ更ニ此レガ試験ヲ重ネント欲ス

一、ヨヒンビン効力試験

明治四十二年八月二十一日官報ヲ以テ「ヨヒンビン」五錠以上ヲ用ヒタル

ルモノハ大ニ勢力ヲ旺盛ナラシメ冠ノ傾倒シ鮮紅ヲ失ヒタルモノモ直ニ回復シ且ツ交尾力ヲ増シ不受精ナリシモ能ク受精スベキ成蹟ヲ第一回試験トシテ發表セラレタルニヨリ本場ニ於テモ名古屋コーチン、バフコーチン、ミノルカ、白色レグホーン、褐色レグホーンノ五種ヲ以テ之ガ試験ヲ行ヒシニ「ヨヒンビン」給與前ニ於テ總數五拾八個ニ對シ貳拾個ノ受精ノモノヨヒンビン給與後ニ於テ之ヲ檢セシニ六拾個ニ對シ貳拾貳個ノ受精ノミニテ殆ンド効力ヲ認ムルヲ能ハザリシ然レモ農商務省ノ試験ハ梅雨期ノ產卵ヲ標準トシ投藥後ノ採卵ハ兩期ヲ去リタル後ナルヲ以テ鶏ノ健康上自然ニ交尾力ヲ回復スルノ時期ニ至リ本場ノ試験ハ冬期ニシテ且ツ投藥後急激ニ温度下降ヲ示シタルヲ以テ如斯正反對ノ結果ヲ來シタルモノナランカ然リト雖モ果シテ効力アルモノトセバ仮令天候ノ急變アルモ今少シク受精スベキヲ豫期シ居タリシガ此ノ不良ノ結果ヲ顯セリ依テ尙更ニ各時期ニ於テ之ガ試験ヲ重ネント欲ス

一、家禽虎列拉病血清注射成績

明治四十二年一月ヨリ十二月末迄ニ本縣内ニ於テ家禽虎列拉病ノ血清ヲ施行シタル總數ハ貳百六拾羽餘ニシテ血清後斃死セシモノナク大ニ良好ノ結果ヲ得タリ

蠶業之部

(一) 一化性春蠶種類試驗

並蠶業傳習生養成

本試驗ノ目的ハ有望ノ蠶種ヲ試供シ蠶兒資質ノ健否發育ノ良否飼育ノ難易養桑量ニ對スル收繭ノ多寡絲質絲量製糸等ニ關スル一切ノ成績ヲ覈査シ以テ其結果ノ優劣ヲ對照比較シ良種ヲ驗出セントス然レモ各種特性ヲ有スルニヨリ之ガ正鵠ヲ得ルハ甚ダ難事ニ屬スルガ故ニ特別飼育ノ外總テ諸般ノ取扱ヲニ様ナランコトヲ期シタリ而シテ之ヲ別テ別桑育全芽育全技育ノ三トシ之ト同時ニ傳習生ヲ養成シ各自ニ蠶量一匁ヅ、分配シ一切ノ業務ヲ擔任シ教授セリ其梗概ヲ以下各項ニ列載ス

種 名	蠶 量	飼 育 別
一、又昔	十七匁	別桑育
一、大又昔	五匁	全
一、下木村	一匁	全
一、大圓頭	一匁	全
一、小石丸	二分	全技育
一、青熟	二分	全芽育

以上ノ各區ハ性質上ニ於テ多少異ナルニヨリ成長ニ遲速ヲ生シタリト雖ヒ強健ニシテ何レモ齊一ニ發育ヲ遂ゲタリ

發育狀況

一、又昔 四月二十六日正午掃下シ五月卅日午前十時終簇シ卅三日廿二時間ヲ要セリ本種ハ發育能ク整ヒ眠起齊一ニシテ蟲質壯健食桑旺盛ヲ極メ舉動活々トシテ飼育容易ナリ

一、大又昔 四月二十六日正午掃下シ五月三十日午後二時上簇了レリ此間三十四日二時間ヲ要ス此種ハ蟲勢盛ニシテ食慾多大ナルニヨリ蠶體肥大シ齊一ニ發育シ飼育極テ易シ

一、青熟 四月二十六日正午掃下シ五月卅日午後十一時終簇シ三十四日二時ヲ要ス本種ハ第二齡二日マデ全葉ヲ與ヘ三日目ヨリ全芽ヲ給セリ而ルニ發育能ク齊ヒ強壯ニシテ壯ニ食桑シ飼育易ク前種ニ比シ敢テ優劣ヲ認メズ

一、小石丸 四月二十六日正午掃下シ五月三十日午後十時終簇ス本種ハ第一齡ニ全葉ヲ給シ第二齡ニ全芽ヲ與ヘ第三齡ヨリ全技ヲ給シ飼育セリ本種ハ蟲質極メテ壯健ニシテ齊一ニ發育シ飼育最も容易ナリ

一、下木村 四月二十七日正午掃下シ五月二十八日午後六時上簇了ル本種ハ發生當時ヨリ軀形肥大シ發育能ク揃ヒ且ツ成長進動作活潑食桑頗ル壯ナリ飼育極メテ易ク佳良ナル發育ヲ遂ゲタリ

一、大圓頭 四月二十七日正午掃下シ五月二十八日午後十時上簇了リ本種ハ前種下木村ト伯仲シ敢テ

收繭成績表

各種蠶量一匁ニ對スル成繭成績左表ノ如シ

種別	一匁顆數	一匁重量	繭層量 (百分率)	蠶量一匁ニ對收繭量	給桑一貫ニ對收繭量
又 昔	二六 ^ケ	一〇〇 ^匁	一五、七	三、一六 ^匁	七、五 ^匁
大 又	二五二	一〇〇	一五、五	三、四三〇	七、九
小石丸	二六〇	一〇〇	一五、五	三、〇三〇	九、三
青 熟	二六〇	一〇〇	一五、五	三、五一〇	八、三
下木村	一四六	七〇	一五、四	四、四五	一一、五
大圓頭	一四四	七〇	一四、〇	四、五二	一一、四

以上示ス處ノ成績ヲ概括シテ其優劣ヲ査定シ之カ位置ヲ示セハ左ノ如シ

本邦種

- 第一位 大又昔資性壯健品質優良佳麗タリキ
- 第二位 又昔蟲性及品質敢テ劣ル處ナシト雖モ收繭少シ
- 第三位 青熟蟲性前者ニ劣ラサルモ品質劣レリ
- 第四位 小石丸飼育容易ナレトモ品質最下位ニアリ

清國種

第一位 大圓頭蟲性強壯絲質極メテ美麗ナリ

第二位 下木村蟲勢絲質ニ於テハ同様ナレモ收量少シク劣レリ

(二) 二化性第二化夏蠶試驗

本試驗ハ各種ノ特種ニヨリ飼育ノ難易發育ノ良否食桑量ニ對スル收繭ノ多少蟲質ノ強弱絲質及絲量等ニ鑑ミ之カ得失長短ヲ驗出セントスルニアリ

種 類	名 稱	育 法	蟻 量	生 産 地
一、二化性第二化	新屋	普通育	五分	佐賀縣立農事講習所
一、全	朝鮮丸	全	五分	秋田縣蠶業組合本部
一、全	白錦	全	五分	本場

發育狀況

一、新屋 本場復製生種ニシテ六月二十日正午掃下七月十五日午後六時上簇終ル此日數二十五日六時
間ヲ要ス本種ハ蟲質健強ニシテ活潑ニ食桑シ發育極メテ能ク齊ヒ遲繭等ナク飼育最モ良好ニ發育ヲ遂ゲ
タリ

一、朝鮮丸 本場復製生種ニシテ六月二十日正午掃下七月十五日午後六時終簇シ廿五日六時間ヲ要ス
本種ハ新屋ノ系統ニシテ前種ニ比シ一般ノ点ニ付テ敢テ優劣ヲ認メス而レモ前者ニ比シ聊カ軀形矮小ナ

一、白錦

本場在來ノ二化性生種ニシテ六月廿日正午掃下七月十五日午後十時上簇了リ廿五日十時間ヲ要シタリ本種ハ前二種ニ比較シ蟲性弱ク經過劣リ飼育幾分カ至難ノ傾向アリ

收繭成績表

蠶量一匁ニ對スル各種ノ試驗成績左ニ表示ス

種別	一舛顆數	一舛重量	繭層量 (百分率)	蠶量一匁ニ對シ收繭量		給桑量一貫對收繭量	
				容	量	容	量
新屋	二四五 ^ケ	九〇 ^匁	一四、〇	二九五 ^匁	二、六五 ^匁	九、二 ^匁	八三 ^匁
朝鮮丸	二六三	九二	一四、一	二八九	二、五八	九、三	八五
白錦	二四二	九〇	一四、〇	二九〇	二、六〇	九、一	八二

前表ハ比較上ノ便ヲ圖リ蠶量一匁ニ換算シタル數量ヲ示ス

以上成績ノ表ヌ所ニヨリ之カ優劣ヲ考案シ以テ其位次ヲ示セバ左ノ如シ

第一位 新屋 蟲質強壯飼育易ク絲質鮮美タリ

第二位 朝鮮丸 蟲性飼育等ハ敢テ前者ニ劣ラサルモ品質及バズ

第三位 白錦 資性弱ク飼育難シ

(三) 二化性第一化秋蠶試驗

本試驗ハ風穴貯藏ノ黑種二化性第一化ヲ試供シ種類試驗ト飼桑試驗トヲ執行セリ前者ハ品種ノ優劣ヲ判シ後者ハ養法ヲ異ニシ之カ適否ヲ考究スルモノトス而シテ其發育ノ狀態食桑並ニ收繭ノ多寡其他諸般ノ事項ニ關シ飼育及製絲上ニ因リ表ス處ノ諸成績ノ概要ヲ以下各項ニ列記ス

種名	蠶量	飼育別	生産地
一、矢ノ羽	五分	普通育	愛知縣
一、豐白	五分	全	本場
一、白龍	五分	全	全
一、中巢	五分	全	愛知縣
一、豐白	一分	硬桑區	本場
一、豐白	一分	土葉區	全
一、豐白	一分	土葉洗滌區	全
一、豐白	一分	乾桑區	全
一、豐白	一分	濡桑區	全
以上各種ノ養法			

一、品種試驗 ニ屬スル四種ノ普通育區ハ適當ナル標準ニ基キ一定ノ方法ニ據レリ

一、硬桑區 ハ掃立ヨリ粗硬ナル葉ヲ摘採シテ之ヲ給與セリ

一、土葉區 ハ桑樹下部ニ開葉シ土粉ノ附着セルモノヲ收摘シ之ヲ其儘剉ミテ給セリ

一、土葉洗滌區 ハ桑葉ニ附着セル土粉ヲ洗濯シタル後陰乾シテ與ヘタリ

一、乾燥區 ハ桑葉ヲ乾カシ稍ヤ枯凋シタルモノヲ給セリ

一、濡桑區 ハ掃下當時ヨリ食桑ニ清水ヲ撒布シ殆ド水ノ滴ルモノヲ給與セリ

飼桑五區ノ目的ハ硬桑區ニアリテハ桑葉經濟ヲ圖リ硬桑ヲ與フル場合ハ蠶兒衛生上ニ及ホス被害ノ有無ヲ試ミ土葉區土葉洗滌區ハ年間春秋二回摘桑スルニ當リテハ不得止土葉ヲ摘葉スルコト往々アリ斯ル場合ニハ其儘與フルカ將タ一應洗滌陰乾ノ後給スルガ得策ナルカラ檢シ乾桑區ハ運搬又ハ貯桑上ノ失体ニヨリ枯凋セシモノヲ與フルノ可否ヲ確メ濡桑區ハ降雨ニ際シ採桑シタル場合ニアリテハ濡桑ヲ與フル時ハ彼レノ衛生ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤヲ驗出セントス

發育狀況

一、矢ノ羽 八月十一日午前九時掃下九月一日午前六時上簇終リ此間廿日廿一時間ヲ要ス本種ハ掃下以來蟲性壯健舉動活潑ニシテ盛ニ食桑シ躰形肥大齊一ニ發育シ飼育最モ易シ

一、豐白 八月十一日午前九時掃下九月一日午前四時終簇シ廿日十九時ヲ以テ良好ニ發育ヲ遂ケタリ

本種ハ蟲性強壯食慾旺ニシテ發育整ヒ前種ト敢テ優劣ヲ認メズ

一、白龍 八月十一日午前九時掃下九月一日午前四時上簇了リ廿日十九時ヲ要ス本種ハ資性及發育ニ

於テハ前二種ニ讓ラサルモ小食ニシテ常ニ軀軀矮小ニシテ聊カ劣ルノ感アリ

一、中巢 八月八日午前九時掃下八月二十九日午前九時ト簇シ廿一日間ヲ以テ發育ヲ遂ケタリ本種ハ

能ク食桑シ軀形肥大シ發育齊一ナルモ蟲質虛弱ノ傾向アリテ飼育易カラス

一、硬桑區 八月十一日午前九時掃下九月一日午後一時老熟セリ此間二十一日五時ヲ要ス本區ハ常ニ硬

桑ヲ給與セシニヨリ食慾進マズ軀軀小形發育不齊トナリ飼育困難且ツ普通區豐白ヨリ十時間遲レタリ

一、土葉給與區 八月十一日午前九時掃下九月二日午後二時終簇シ二十二日五時間ヲ費シタリ本區

ハ土葉ヲ給セシニヨリ逡巡トシテ食慾振ハス常ニ前身半透明トナリ滋養不足ヲ告ケ軀軀矮小ニシテ發育遲々トシテ且ツ不齊ナリキ飼育甚ダ困難最モ不良ナル終ヲ告ケタリ

一、土葉洗滌給與區 八月十一日午前九時掃下九月一日午後九時上簇終リ廿一日十二時ヲ以テ發育ヲ

遂ケタリ本區ハ洗滌陰乾セルニ因リ葉質ヲ損シ食桑ニ適セザレバ食慾進マス營養ニ欠クル處アリテ舉動緩慢發育不整飼育易カラスト雖モ前區ニ比スレバ遙カニ優レリ

一、乾燥給與區 八月十一日午前九時掃下九月二日午前十一時終簇シ二十二日二時間ヲ費シタリ本

區ハ枯凋變質ノ桑葉ヲ與ヒシニヨリ遲々トシテ飢餓ニ迫ラザレバ食セズ遂ニ滋養不足ヲ告ケ發育整ハズ

飼育日數長ク前土葉區全樣甚ダ不良ニ終リテ告ケタリ

一、濡桑區

八月十一日午前九時掃下九月一日午前十一時老熟シ了リ廿一日二時間ヲ要ス本區ハ餌桑

ニ清水ヲ撒布シテ給與セシニヨリ常ニ水分過多ナル爲メ遂ニ健康ヲ害シ動作緩慢不活潑トナリ成長スルニ隨ヒ軟弱ニシテ不齊トナリ病蠶ヲ生シ甚ダ不良ナルヲ告ゲタリ

收繭成績表

種別	一鉢顆數	一鉢重量	繭層量 (百分率)	繭量一匁ニ對收繭量		給桑一貫ニ對收繭量	
				容 量	重 量	容 量	重 量
矢ノ羽	二四五 _ケ	九〇 _匁	一四、四	三五 _匁	三、一五九 _匁	八、〇 _匁	七二 _匁
豐白	二三九	八八	一四、三	三四九	三、〇七一	一〇、〇	八九
白龍	二七六	九四	一四、五	三〇九	二、九〇五	九、二	八七
中巢	二四五	九五	一四、四	三〇二	二、八九六	八、八	八三
硬桑區	三〇二	八一	一三、一	二三〇	一、八六三	六、一	四九
土葉區	三五五	八二	一三、一	一七〇	一、一三七	四、二	三四
土葉洗滌區	二八一	八五	一三、五	二五一	二、一三四	六、八	五八
乾燥區	三〇〇	八二	一三、一	二一〇	一、七〇一	六、五	五二

濡桑區	二五二	八五	一三七	二七五	二、三六	九、三	九
-----	-----	----	-----	-----	------	-----	---

前表ハ對照上ノ便ヲ圖リ蟻量一匁ニ換算シタル收繭量ニ表記ス

以上表ス處ノ諸成績ヲ綜合シテ其優劣ヲ判別シ之カ位次ヲ示セハ概要左ノ如シ

第一位 矢ノ羽 蟲質強健飼育易ク品質佳良タリ

第二位 豐 白 蟲質前者ニ讓ラサレドモ品質少シク劣レリ

第三位 白 龍 蟲性品質ニ於テ前二者ニ劣ラサレドモ收繭量少シ

第四位 中 巢 絲量多ク品質優良ナルモ蟲性虛弱ニシテ飼育難シ

第五位 濡桑區 齡ノ進ムニ從ヒ蠶体柔軟トナリ病蠶多ク生シ成繭薄クシテ且ツ粗惡ナリ

第六位 土葉洗滌區 發育不整成繭粗ニシテ品質劣惡ナリ

第七位 硬桑區 成長不揃ニシテ遲繭及病蠶等ヲ生シ成繭小形ニ失シ且ツ粗惡ナリ

第八位 乾燥區 前區ニ比シ総テノ点ニ於テ一層劣レリ

第九位 土葉區 成育極メテ不齊遲繭及病蠶多出シ成繭粗ニシテ品質最モ劣レリ

昆蟲病理之部

三二

青酸瓦斯燻蒸試驗

青酸瓦斯燻蒸試驗ハ四十一年度創設ニシテ今年施行セシ試驗種類及其成績ノ

大要ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、藥量對時間試驗

前年ト全シク内容千立方尺ニ對シ春季ニ於テハ青酸加里貳百貳拾五瓦時間四十五分ヨリ六十分ニ於テ施行スルトハ害虫死滅シ苗木ハ更ニ害セラル、コナシ夏季ニ於テハ青酸加里貳百瓦時間四十五分ヲ以テスレバ被害最モ少ク害虫殺滅スルコトヲ確メ得タリ

二、種類對藥量時間試驗

夏橙、チーブル、佛手柑、金柑ノ四種類ニ於テ試驗セルニ何レモ青酸加里

貳百瓦時間三時間迄ハ異狀ヲ認メス就中夏橙最モ多量ノ藥量及長時間ノ燻蒸ニ堪ヘチーブル佛手柑之レニ亞キ金柑最モ弱キガ如キモ金柑ハ供試苗多少良好ナラサリシヤノ感アレハ回チ重ネサレハ確定シ難シ

三、砧木及接梢ノ燻蒸時間對藥量試驗

砧木及接梢ヲ各別ニ燻蒸シ活着ノ程度ヲ檢セントシ青

酸加里ヲ百五十瓦ヨリ三百瓦迄時間ヲ三十分ヨリ二時間迄トシ施行セシニ何レモ能ク活着シ藥量及ヒ時間ノ多少ニヨリ差違ヲ生スルコトナシ

四、濕氣對燻蒸時間試驗

燻蒸當時苗木ノ乾濕ニヨリ被害程度ノ差異ヲ確メントスルモノニシテ

少シク濕氣ヲ與ヘタルモノ多ク濕氣ヲ與ヘタルモノノ二種トセンカ濕氣多キ程落葉若クハ新梢ノ枯損ス

ルモノ多キカ如シ

葉枯病ニ關スル試驗

本試驗ハ四十一年度ノ新設ニシテ其ノ目的ハ稻葉枯病原因及誘因ヲ研究シ

併セテ之レカ豫防ノ方法ヲ案出セントスルニアルモノニシテ大要前年ト同一ノ事項ニ就キ同一地ニ於テ試驗セリ即チ左ノ如シ

一、種子ト本病トノ關係

一、播種量ト本病トノ關係

一、播種期ト本病トノ關係

一、被害地苗無被害地苗ト本病トノ關係

一、移植期ノ早晚ト本病トノ關係

一、肥料ノ種類及三要素ノ分量ト本病ノ關係

一、灌溉水ノ深淺ト施肥量ト本病ノ關係

一、稻生育中人爲ノ障害及同障害後豫防劑注加ト本病ノ關係

右事項ニヨリ試驗セル結果ヲ綜合スレハ左ノ如シ

一、ボルドー液注加ノ無障害及障害區ハ他ノ不注加ノ區ニ比スレハ被害著シク輕少ナルノミナラス全

試驗區中被害最モ少シ

一、障害ハ本病ヲ誘發スルヲ夥シ

一、移植時期早キモノハ發病早ク且被害多シ

一、窒素肥料多キモノハ例ヘハ窒素二培區鱗粕大豆粕單用區ノ如キハ被害甚タシク無肥料ハ其ノ被害大ニ少シ

一、磷酸及加里肥料ノ過多ナルキハ被害少シ

又本病ニ關シテハ土壤及稻草ノ分拆菌類ノ分離接種研究ノ結果本病ハ一種ノ短桿狀細菌ノ作用ニ起因スルヲ確メ目下該菌ニ就キ研究中ナレハ詳細ナル發表期モ亦遠キニアラサルベシ

分析之部

本年度中依頼ニ應シ分析ヲ爲シタル數十九件ニシテ其成績ハ夫々依頼者ニ報告シタリ

紅茶之部

農商務省ノ依頼ニヨリ四十年度ヨリ茶樹栽培及紅茶製造試驗ヲ行ヘリ其大要ヲ掲クレバ次ノ如シ

第一 茶樹栽培試驗

一、肥料同價試驗

肥料ノ種類及其用量ト收穫量及生葉ノ品質トノ關係ヲ知ランガ爲メ一畝ヲ一區

トシ左ノ通り試驗セリ

第一區 無肥料區

第二區 人糞尿區

一株ニ付 五合

第三區 菜種油粕區

全 八勺

第四區 大豆粕區

全 一合

第五區 堆肥區

全 五百匁

三ヶ年ヲ通シテ最モ收量ノ多キハ菜種油粕區ニシテ大豆粕人糞尿區之ニ次キ品質ノ最良ナルハ人糞尿區トス

二、敷草試驗

夏秋旱害豫防並ニ施肥ノ目的ヲ以テ施ス敷草ノ効力ヲ檢セン爲メ二區ヲ劃シ左ノ通り

試驗セリ

第一區 敷草區 夏土用中青草反當壹千貫ヲ敷込ムモノ

第二區 普通區 敷草セサルモノ

ニヶ年平均成績ニ於テ反當拾貳貫匁ノ增收ヲ示シ且品質可ナリ

三、剪枝試驗

剪枝ノ良法適度ヲ檢定センカ爲メ左ノ試驗ヲ行ヘリ

第一區 淺刈區 前年剪枝セル所ヨリ一寸高ク剪枝スルモノ

第二區 深刈區 全上五分下ヨリ剪枝スルモノ

第三區 普通區 全上五分上ヨリ剪枝スルモノ

第一年目ノ成績顯著ナラズト雖淺刈ニ利アルガ如シ

四、剪枝時期試験

二番芽摘採前ノ剪枝ノ得失及二番芽ノ收葉量ノ多寡ヲ比較セン爲メ左ノ二區ヲ

劃シ試験セリ

第一區 一番芽摘採后放置シテ二番芽ヲ摘ムモノ

第二區 全上直チニ剪枝シ二番芽ヲ摘ムモノ

第一區收量多少勝レリ第二區ハ摘採期第一區ニ比シ約五日間遲延スルヲ以テ勞力分配上又利用スベシ

五、マンガン刺激試験

マンガンノ刺激ノ爲メ收葉量ノ増加及製茶品質ニ及ホス影響ヲ知ランガ爲

メ左ノ如ク試験セリ

第一區 普通區

第二區 マンガン(鹽化マンガン)ノ形ニテ五百匁區(反當)

第三區 マンガン壹匁匁區(二回分施)

第四區 マンガン壹匁五百匁區(三回分施)

マンガン施用區ハ一般ニ收量多ク製茶ノ品質可良ナリ

硫酸マンガニ付テ行ヘル結果モ大差ナシ

六、磷酸効力試験

磷酸ガ紅茶品質ニ及ホス影響ヲ知ランガ爲メ一畝宛ツ、左ノ通り試験セリ

甲、磷酸分ヲ主ニ過磷酸石灰ニ依ルモノ

窒素百ニ對スル磷酸ノ比

第一區 普通區 原肥茶種油粕貳拾貫 追肥人糞尿二百貫

三〇

第二區 過磷酸石灰五貫匁(反當)加用區

六五

第三區 全上拾貫加用區

一〇〇

第四區 全上拾五貫加用區

一三五

乙、米糠ノ磷酸ニ依ルモノ

第五區 米糠貳拾貫區 (茶種油粕拾貳貫人糞尿二百貫)

五八

第六區 全上參拾五貫區 (全六貫人糞尿全上)

七八

第七區 全上五拾貫區 (人糞尿全上)

九八

磷酸施用區ノ製茶ハ著シク可良ナリト雖未ダ第何區ヲ最モ適量ト爲スカハ顯著ナラズ

第二 製造試験

七、萎凋試験

生葉萎凋ノ程度及其方法ト製茶ノ香味水色トノ關係ヲ知ラン爲メ左ノ通り試験セリ

甲、全ク日乾スルモノ

一、生葉ニ比シ水分減二割八分

乙、全ク陰乾スルモノ

二、全 上三割三分

丙、甲乙混合スルモノ

三、全 上三割八分

日乾萎凋ハ陰萎凋ニ比シ注意ヲ要スト雖適度ニ至ルルハ香氣可瓦味亦甜和ナリ陰萎凋ハ苦味多キヲ見ル
丙ニ至リハ得失相半ス

萎凋ノ度ニ付テハ苦キ程捻レ込ミ惡シキモ水色濃厚ナリ之ヲ要スルニ日乾二割八分乃至三割ヲ適度トス

八、揉方試験

揉捻法ト製茶ノ形狀水色トノ關係ヲ知ランガ爲メ左ノ試験ヲ行ヘリ

第一 在來袋揉

第二 在來袋揉ト横筒形揉ヲ混用スルモノ

第三 足揉

作業中玉解ニ付テハ足揉法最モ容易ニ混台法之ニ次キ在來法最モ困難ナリ形狀ハ葉質柔キルハ大差ナキ
モ剛キルハ在來法最モ緊リ瓦シ水色ニ付テハ足揉法勝ルヲ見ル

九、醱酵試験

醱酵中茶葉ノ溫度ト醱酵時間ノ長短トガ製茶ノ品質ニ及ホス關係ヲ知ランガ爲メ左ノ

通り試験セリ

第一 三十度ニテ三時半醱酵セシム

第二 四十度ニテ二時半全 上

第三 三十八度ニテ二時間全 上

第四 全 上三時間全 上

第五 全 上四時間全 上

第六 支那風

葉中水分含量ノ多少ハ醱酵ト多大ノ關係アレハ一定セリ而シテ其結果第四三十八度四時間區及第六支那風良好ナリ

十、乾燥試驗

荒乾燥ノ火度強弱及時間ノ長短ハ製茶ノ品質ニ如何ニ影響スルカナ知ランカ爲メ左ノ如ク試驗セリ

一、八十度 三十分

二、八十度 一時間

三、九十度 三十分

高温長時間ノ乾燥ハ危險ナリ九十度ニテハ約十四五分ニテ充分ナリ八十度ニテモ二十分ヲ以テ足ル要之
温度ノ高低ニヨリ時間ハ制限ナク焦ケサル様注意スルヲ要ス

第三 一二番茶製造試驗

十一、醱酵試験

支那風製造ニ於ケル醱酵時間ノ長短ト品質トノ關係ヲ知ンタメ左ノ如ク試験セリ

但シ第二水乾程度六割醱酵温度四十二度

第一、一時間半

第二、二時間

第三、二時間半

審査ノ結果ニ依レバ第二、二時間區最モ可良ナリ

十二、第二回水干程度試験

第二回水干程度ニヨリ醱酵具合ノ良否ヲ檢シ併セテ製茶品質ニ及ホ

ス影響ヲ知ラン爲メ左ノ通り試験セリ

第一、生葉ニ比シ水分減量四割八分

第二、全

上五割五分

第三、全

上六割三分

試験ノ結果ハ五割五分最モ可良ニシテ六割三分之ニ次グ尙回ヲ重ネテ確ムルヲ要ス

十三、醱酵后放置程度試験

醱酵后放置スル時間ノ長短ト製茶品質ニ及ホス影響ヲ知ラン爲メ左

ノ通り試験セリ

第一、即時乾燥スルモノ

第二、三時間放置スルモノ

第三、十四時間(夕方ヨリ翌朝迄)放置スルモノ

醱酵后乾燥迄相當時間放置スルハ必要ニシテ水分含量少キ茶葉(第二、水乾六割以上ノ如キ)ハ決シテ惡變化ナキノミナラス最モ安全ニ否有利ナル効果ヲ納メ得ベキナリ之レ作業上至便ノ事トス

第四 大 製 造

一、買收生葉製造試驗 五月二日ヨリ全十九日迄天氣都合良ク生葉四千貫ヲ購入セリ故ニ一日製造

高ハ平均貳百拾貫ニシテ生葉購入額日計最少ハ三日ノ參拾五貫ニシテ最多ハ十八日ノ四百五十八貫ナリ
平均生葉壹貫ノ價格ハ約三十二錢ナリ之レ少シク高價ニ過クト雖釜焚綠茶ノ影響止ムヲ得ザリキ
製造ハ主トシテ支那風ニヨリ加温自然醱酵ニヨレリ

荒製人夫ノ工程ハ男一人一日平均八貫餘ニ當レリ

精製ノ結果

荒茶	六、二四一斤	全歩止リ	二割四分九厘
----	--------	------	--------

精製茶	四、八〇八斤	全歩止リ	七割七分
-----	--------	------	------

出物	一、一〇〇斤
----	--------

二、試賣成績

前年度製茶試賣殘ヲ合シ約九千斤ヲ本年度ニ於テ試賣セリ其拂下ノ主ナルモノヲ表示スレバ次ノ如シ

方面	拂下先	仕向先	數量	單價	價額
本縣	内田熊藏	内地向	四五〇 _斤	三五、〇 _円	一五七、〇〇〇 _円
東京	龜屋鶴五郎	全	三〇〇	三三、〇	九九、〇〇〇
神戸	山本龜太郎	全	四〇〇	三六、〇	一四四、〇〇〇
神戸	杉本惣吉	獨乙送リ	二、七五〇	三一、七 _餘	八七二、五〇〇
長崎	堤英夫	シベリヤ 濠州送リ	三、五〇〇	三〇、〇	一、〇五〇、〇〇〇
本縣	茶業組合	内地賣?	三五〇	三五、〇	一二二、五〇〇
横濱	高橋甚藏	全?	五〇〇	三三、八	一六九、〇〇〇
長崎	近藤房太郎	全	三〇〇	三五、〇	一〇五、〇〇〇
横濱	横濱茶業組合	日英博覽茶 店用	三〇〇	三五、〇	一〇五、〇〇〇
	小賣		約 三〇〇	約 四〇、〇	一二〇、〇〇〇
	計		九、一五〇	三二、一七〇	二、九四四、〇〇〇
其他收入			約	約	一二六、〇〇〇
收入合計					三、〇七〇、〇〇〇

農區之部

第一 農 區

本農區ハ福岡市ヲ中心トシテ西ニ早良糸島東ニ粕屋宗像南ニ筑紫ノ一市五郡ヨリナリ各土質及農業耕種ノ方法ヲ異ニセリ一般ニ市ニ接近セル筑紫郡ノ一部(即チ住吉、堅粕、豐平、那珂 席田)粕屋郡ノ一部(箱崎、大川、多々良)早良郡ノ一部(西新町鳥飼)等ハ主ニ蔬菜作並ニ苗類ヲ以テ生業トシ是等ノ中部及糸島宗像ノ兩郡ノ如キハ米麥薯芋作ヲ以テ主業トナシ山間部ニ至ルニ從ヒ殖林並ニ果樹ノ栽培及產畜養蠶等ヲ副トナシ其ノ農業ノ狀態千差万別ナルヲ以テ獎勵の方針モ亦異ニセザル可カラズ今四十二年度ニ於ケル施設及獎勵ノ狀況ヲ列記スレハ次ノ如シ

一、六大要項ノ獎勵

本農區中其ノ獎勵困難ヲ感セシハ間作綠肥ノ栽培ニシテ極力之レガ指導獎勵

ニ勉メタリト雖モ其ノ結果良好ナルヲ得ズ然レバ各郡農會ニ計リ部分的栽培ノ規定ヲ設ケ間作綠肥生育良好ナルノ地及秋播綠肥ノ佳良ナル地ニ向テ熱心之レガ指導獎勵ニ傾注セシ結果大ニ見ルベキモノアリ殊ニ秋播紫雲英ハ菌核病豫防法ヲ獎勵セシ爲メ發芽收量ノ歩合ヲ増加シ從テ其ノ栽培多キヲ加ヘタリ殊ニ糸島郡ノ間作綠肥栽培粕屋郡ノ秋播綠肥栽培ノ如キ益々盛況ヲ呈スルノ狀況ナリ

堆肥改良増製ハ年ト共ニ益々改善ノ域ニ達シ粕屋郡ニテハ町村ニ堆肥品評會ヲ開催シ又宗像郡ニテハ町

村ニハ勿論郡設堆肥品評會ヲ開設シテ各町村ニ就キ現物審査ヲ行ヒ郡下赤粘土ノ土質ニ鑑ミ大ニ斯業ノ改良發展ニ勉メタリ尙各郡農會ハ堆肥舍ノ増設ニ傾意シ補助ヲ與ヘ獎勵ニ務メリ

稻正條植ハ農區ヲ通シテ殆ソド之レガ實行ヲ見ザルナキモ縱橫正條植ニ至リテハ結果良好ナラズ故ニ其間一致之レガ指導督勵ニ勉メ宗像郡ニテハ幹部總出ノ有様ニテ獎勵ノ結果大ニ見ルベキモノアリテ總子別ノ半數ハ縱橫正條植ヲナスニ至レリ殊ニ器具ヲ用ヒシメタルヲ以テ一見シテ區劃正然タリ其ノ他ノ郡ハ片口植ノ法ヲ以テ插摸セシメ稍々正割ナルヲ得タリ

深耕ニ就テハ犁器ノ改善ト共ニ其ノ技術ノ進歩トヲ期センガ爲メ深耕研究會並ニ競犁深耕品評會等ヲ開催シ前年度ハ各郡ニ競犁會ノ開催ヲ見ザリシモ本年度ニ於テハ各郡進農會主催トナリ天競犁會ノ開催ヲ見ルニ至レリ

米麥鹽水撰ハ各郡並ニ町村農會共ニ實地指導監督ノ任ニ當リ選種用鹽ノ共同購入又ハ補助金ノ交付等ヲナシ極力獎勵ノ結果粳種ト鹽水撰ハ殆ソド全部ニ普及シ目下夏期麥種子鹽水撰ノ獎勵ニ勉メツ、アリ石灰ハ農家各自其ノ利害ノ存スル處ヲ漸次知得シ年ト共ニ其ノ量ヲ節スルニ至レリ

二、共同苗代及苗代品評會 年ヲ重ネ益々進歩發達ノ域ニ達シ自動的ニ其ノ設置ヲ見ルニ至レリ殊ニ設置以來著シキ現象ハ種類ノ一定播種量ノ減少健苗ノ養成、病害虫ノ驅除周到、灌排水ノ便等大ニ見ルベキモノアリ

粕屋郡ハ本年度ノ設置ニ係ルモ其ノ進歩著シキモノアリ箇所數ニ於テモ亦苗代ニ於テモ決シテ他ニ劣ラザルモノアリ本農區中殊ニ優等ニシテ他ノ模範トナルベキモノハ左ノ如シ

早良郡鳥飼村 (三ヶ年優等)

粕屋郡大川村 (二ヶ年優等)

以上ノ如クニシテ粕屋郡大川村ニテハ苗代ニ焼灰使用獎勵ノ結果異大ノ好成績ヲ顯シ苗ノ健全浮上ノ除害又苗採取ノ容易ナル等利スル處大ナリ

宗像郡農會ニテハ苗代品評會ヲ開催シ各町村六十餘ヶ所ニ就キ之レガ審査ヲ行ヒ優等者ヘ賞品ヲ授與セリ

三、町村模範田並ニ模範作組合 町村模範田ハ其ノ成績顯著ニシテ地方農事ノ改良發達ニ裨益スル處大ナリ殊ニ各方面ニ於テ種々ノ試驗的試作ヲナシ

一、葉枯病ノ如キモノ發生ノ地方ニハ木灰ノ使用散布及肥料ノ配合ノ試作

一、簡易ナル肥料配合ノ例

等ヲナサシメタルニ概シテ成績良好ニシテ葉枯病モ至テ少ナク又他ノ稻田ニ比シ生育一層佳良ナリシ以上ハ一ヶ所一人ノ試作田ニ止マリ全般ニ之レヲ行ハシムル能ハス故ニ粕屋郡ニテハ町村模範作組合ナルモノヲ設置シ二十人ヲ一組合トナシ六大要項ハ勿論肥料ノ配合等ヲナサシメ極力獎勵ノ結果農家ノ注

意ヲ惹起セリ

四、郡農會模範農場

年ヲ重マル六歲農家模範ノ實ヲ舉ゲシメント勉メ極力指導監督ヲナセシモ農場ノ移轉技手ノ轉勤等ニテ充分ナル成績ヲ發現スルコト能ハザリシハ大ニ遺憾トセシ處ナリ然レモ粕屋郡筑紫郡ノ如キハ順當ノ成績ヲ得テ蔬菜類苗及米麥蠶苔種子ノ配布並ニ園藝的茄子胡瓜西瓜甘藍葱頭等ノ耕作ヲナシ農家ヲ裨益セシ尠少ナラズ

五、諸集會

長期農事講習會ハ各郡之レヲ開設シ主ニ農事全般ニ涉ル學理ヲ講習シ會期ヲ廿一日トナシ開催シ來レリ各郡共ニ多數ノ應募者アリト雖モ宗像郡早良郡ハ比較的少數ナリ

短期農事講習會ハ前年度迄ハ盛ニ之レヲ開催シ來リシト雖モ郡ノ希望ニヨリ農談會トナセシ處多カリキ農談會ハ主ニ六大要項並ニ共同苗代排水法肥料ノ配合並ニ施肥ノ法ヲ講話シ主ニ農閑ノ期ヲ利用シテ開催セリ然ルニ農談會ハ一村ヨリモ一部落ニ開催スルノ有利ナルヲ知リ本年度ヨリ各郡共ニ申合部落農談會トナセリ

肥料講習會ハ各郡共ニ之レヲ開催シ縣肥料検査吏員出張ノ上肥料販賣並ニ購入上ニ關スル講話ヲナシ又肥料施用配合ノ方法ヲ説キ殊ニ本年度ハ大豆粕ノ價格安ク農家盛ニ使用スルノ弊害アリシヲ以テ極力之レガ防壓ニ勉メ一方ニハ過磷酸石灰木灰等ノ使用ヲ獎勵セリ

六、模範排水工事

宗像郡ハ概シテ耕地赤粘土地多ク排水不良ニ毛作ノ行ナハレザル處多シ故ニ郡

農會模範的排水工事ヲ各町村ニ行ナハシムルニ決シケ所二十圓ノ補助ヲ與ヘ各所ニ排水工事講習會ヲ開催シ秋收后ヨリ插秧迄ノ内ニ工ヲ起シ大ニ指導勵督ノ結果至大ノ好成績ヲ顯シ一毛作ノ地ハ二毛作地トナリ米質及收量ヲ高メ大ニ模範ノ實ヲ舉ケシムルヲ得テ農家モ自動的ニ計畫スルノ氣運ニ向ヒツ、アリ

七、各種品評會

早良郡田隈村ニテハ小作人獎勵ノ一助トシテ同村小作米品評會ナルモノヲ開催シ各大地主ニヨリテ組織セラレ一方ニハ積立金(一口三圓)ノ制度ヲ設ケ毎年小作米ニ就キ其ノ優劣ヲ判定シ種類ノ一定並ニ改善乾燥調製等ニ意ヲ用ヒ又收入ノ時季ヲ確定スル等種々有利ナル事多ク其ノ優等者ヘハ賞品ヲ授與シ大ニ獎勵ヲ加ヘツ、アリ

以上ノ外早良郡壹岐村ノ土斐崎、西新町高山、筑紫郡二日市町ノ谷、粕屋郡宇美村ノ小林諸家ニテモ小作人獎勵ノ方法ヲ設ケ小作米品評會ヲ開催シ地主ト小作人トノ融和ヲ圖リ大ニ保護ヲ加ヘツ、アリ

米麥蠶蠶立毛品評會ハ各郡町村ニ之ヲ開設シ大ニ效果アリ四十三年度ニ於テハ郡設稻立毛品評並ニ農產物品評會開設ヲナサシメントス

八、果樹栽培並ニ蔬菜作

本農區中果樹類ノ特產地トモ稱スベキハ粕屋郡立花村ノ溫蒔並ニ枇杷勢門村ノ夏橙青柳村ノチーアル金柑筑紫郡岩戸村ノ葡萄住吉村ノ梨宗像郡河東村ノ苹果糸島郡ノチーアル等ヲ以テ有名トス

粕屋郡立花村ハ土質花崗岩ノ紛碎ヨリナリ尤モ良質ノ溫蒔柑ヲ生ズル三上岳ノ麓ハ南方ニ面シ北風ヲ防
 る柑類ノ好適地ナリ同地方ニ於テ尤モ熱心ナル耕作者ハ立花口副田常吉氏ニシテ同氏ハ本年度ニ於テ二
 千五百本ノ栽植ヲナシ又良質ノ柑樹ヲ有シ肥料手入等モ稍合理的ニ近シ

今持主ノ成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

肥料ノ改良 ユシテ四十一年頃迄ハ主ニ大豆粕ノミヲ使用シ來リシガ(十五年生木)樹ノ生長良好ナ
 ル割合ニ結實思シカラズ新芽崩出セルノ傾アリ故ニ干鰯ノ粉碎セルモノヲ使用セシメシニ次年ニハ好
 結果ヲ得光澤甘味共ニ佳良各種ノ品評會ニテ優等賞ヲ得タリ爲メニ干鰯ノ使用頓ニ多キヲ加ヘタリ
 種類ノ撰擇 ハ各自意ヲ用ヒ良種苗ノ購入ニ勉メ又二三年ハ苗床ニ假植シ后定植ノ様申合ヲナシ之
 レヲ勵行シタレリ

貯藏試験及貯藏庫 少量ノモノハ青木ノ葉ニテ之レヲ貯藏シ六月五日迄ニ出セシモノハ一割五分七
 月二日頃迄ニ出セシモノハ二割ノ腐敗ヲナセシニ止マリ成績大ニ良好ナリシ又縦五間横二間半ノ貯藏
 庫ヲ立花山麓竹林中ニ設置シ二万斤餘ノ溫蒔柑ノ貯藏ヲナセリ

尚立花青柳席田三村聯合果物品評會ヲ青柳村ニ開催シ其ノ優劣ヲ判定シ賞品ヲ授與セリ

蔬菜作ハ粕屋郡箱崎筑紫堅粕ヲ以テ名アリ然レモ箱崎ハ工科大學ノ敷地ニ好位置ヲ占領セラレ從テ良田
 化シテ畑トナリ次第ニ栽培區域ヲ狹メラレツハアリ故ニ將來ハ小面積ニ多利ノ方法即チ促成ノ必用ナル

ヲ説キ又苗ノ養成等ヲ獎勵シ今年度ニ於テ促成用種子ニ三保胡瓜、東京促成用茄子ヲ取寄セ試作セシメタルニ成績良好ナリシ兩地共ニ未タ西洋蔬菜栽培ノ進境ニ達セズ

九、共同挿蒔

筑紫郡大野村字瓦田ニテハ共同苗代ノ設置宜シキヲ得テ優等ナルノミナラズ同部落ニテハ共同挿蒔ヲナシ其ノ結果極メテ良好ナリシ同事業ガ雇入人夫ヲ省キ乱植且早植ヲ防ギ經濟上ニ於テモ有利得策ナル事業ナリトス

十、進農會並ニ青年會及同窓會

進農會員ノ活動ハ目覺シキモノアリ縣郡町村進農會員相互ニ氣脈ヲ通シ一大競烈會、深耕品評會、種子交換會、堆肥品評會、農事講習會、立毛品評會、試作田設置肥料配合等能ク他ノ模範タルノ事業ヲナシ農業界ニ効顯セシ處多シ今ヤ農界ノ中堅トナリ改良進步發達ニ多大ノ裨益ヲ與ヘツ、アリ

青年會筑紫郡御笠村本道寺青年不夾會ノ如キハ能ク其ノ模範タルベキモノニシテ今其ノ概要ヲ記センニ同會ハ今ヲ去ルコト廿六年前ノ設立ニカ、リ其ノ間一盛一衰ナキニアラザルモ會員ノ一致共同能ク其ノ主旨ヲ捧持シ時間ヲ守リ信義ヲ重シ農耕ニ勉メ夜學並ニ副業ヲ進メ専心撓マズ風紀ノ矯正ニ留意シ四十二年五月四日廿五年祝賀會ヲ同村本道寺ニテ舉行セリ其ノ他各所ニ同會ノ設立ヲ見青年子弟ノ風紀並ニ改善ニ勉メツ、アリ

同窓會同會ハ小學校卒業生ヲ以テ組織セラレ春秋二回ニ又夏期休業ヲ利用シテ校ニ參集シ各自舊情ヲ溫

メ名士ノ講話ヲ聞キ又實驗談ヲナシ風紀ノ改善ニ意ヲ用ヒ青年男女ノ教化ニ専心シツ、アリ

十一、郡設農業技手 本年度ノ新設ニシテ諸般農業上獎勵ノ任ニ當リ殊ニ獎勵事項ノ周知、農談會

回數ヲ多カラシメタルト等ハ著シキモノニシテ其ノ効果多大ナリト云フベシ

十二、信用組合ト購賣組合 信用組合ハ各郡共ニ漸次設立ノ氣運ニ向ヒ殊ニ粕屋郡ハ其ノ成績良

好ニシテ資金ノ運用等圓滑ニ行ナハレ且又各町村ニ購賣組合ナルモノヲ設立シ比較的安價ニ物品ヲ農家ニ販賣シ非常ナル便利ヲ與ヘツ、アリ目下開期ノ初ナルヲ以テ多少不馴ノ点アリテ苦情アリシモ次第ニ其ノ必要ヲ感テ好況ヲ呈スルニ至リツ、アリ

十三、各種ノ副業

養雞 本農區中養雞ノ主產地ハ宗像郡ニシテ各戸數羽ヲ飼養シ福博ハ勿論門司下ノ關炭礦地方ニ販賣

ス同雞ハ肉軟カニシテ美味ナリ

養畜 牛ハ糸島郡及宗像郡大島ヲ以テ名アリ糸島牛ハ小値賀牛ヲ改良セシモノニシテ性質溫順能ク農

耕ニ堪ヘ從テ近來岡山其ノ他東北地方ニ廣ク需用セラル

馬ハ筑紫郡糸島郡等尤モ盛ンニシテ熊本種馬所ヨリ良種牡馬ノ來郡ヲ待テ良母馬ニ交配シ極力之レガ改善増殖ヲ圖リツ、アリ其ノ他郡又ハ郡農會ニ畜産技手ヲ置キ飼養管理等ノ講話講習ヲナシ之レガ發展ニ勉メリ

蠶業 養蠶ハ農家副業ノ一ニシテ各郡共ニ蠶業技手ヲ置キ指導獎勵ノ任ニ當リ各町ニ講話講習會ヲ開キ

又早良郡ニテハ秋蠶傳習所ヲ開設シ筑紫粕屋兩郡ノ如キハ郡設乾繭所ヲ設置シテ共同殺蛹ニ勉メ尙稚蠶共同飼育所ヲ開設シ各擔任教師ヲ置キ指導獎勵ニ務メ又桑園品評會ヲ開催シ桑樹ノ改善増植ニ傾意シ尙進ンデ共同販賣ノ法ヲ設ケ益々發展ノ域ニ達セントス

機業 粕屋郡大川村ニテハ婦人ノ餘業トシテ白木綿ヲ生産セシメ之レヲ販賣ス一時ハ糸騰貴シテ木綿下落セシニヨリ利益少ナカリシガ今日ニ至リテハ又有利ナル副産業トナリ信用組合ヨリ木綿糸ヲ供給シ又販賣等モ共同ノ制ヲ取リナレリ

第二 農 區

一、特定獎勵事項 六大事項中澁水撰種ハ全部普及セシモ僅ニ大小麥ヲ剩セリ正條植モ殆ンド全部ニ達セシモ縱横正條植ハ遠賀郡ノ九割五分田川郡ノ一割ヲ兩極トシ嘉穂鞍手ハ三割内外ニ過ギズ深耕ハ競翠會ト深耕品評會ト犁具改良並ニ傳習ノ効果顯ハレ大ニ進歩ノ實アルヲ認ム堆肥ノ改良増製ハ特ニ意ヲ用キシニ堆肥舍ノ新設各郡毎年二三十棟ヲ見ルニ至リ製肥ノ術亦著シク改善セラレ産額年々増加ノ徵アリ綠肥ハ秋蒔紫雲英種子ノ改良ト間作大豆紫雲英ノ増加著シキモノアリ石灰節用ハ宜シキヲ得敢テ濫用者ヲ發見セズ要スルニ此等特定獎勵事項ハ滿六年間ニ於テ殆ント豫期ノ域ニ達シ今後改進ノ餘地尠少ナリトス

二、苗代改良 共同苗代ハ四十一年獎勵ノ當初三十ヶ所ナリシモ今ヤ百三十三ヶ所ノ多キニ達シ實質著

シク改良セラレ將來有望ナリ苗代品評會ト相俟テ大ニ苗代改良ノ實蹟ヲ見ハセリ殊ニ苗代肥料ノ合理的トナリ種量ノ減少、品種ノ統一、除害ノ周到、之ヲ舊時ニ比スレハ霄壤ノ差アリ

三、副業ノ發展

當農區ハ炭坑地ナレハ蔬菜果物ノ需要絶大ニシテ從來殆ント其全部ヲ他區又ハ縣外ヨリ供給セシモ昨今ハ過半農區内ノ產出品ヲ以テ代ユルニ至レリ養雞養蜂モ面目ヲ一新シ牛馬ノ繁殖、産鹵ノ増加、造林ノ振興等年々倍蓰加フルニ果樹園ノ新開每年約五六十町步ヲ算スルノ盛況トナレリ

四、施肥ノ改善附種苗

摸範農場並ニ町村摸範田ノ設置ハ稻麥其他一般作物ノ耕種上貢獻多大ニシテ就中肥料ノ撰擇配合ト良好種苗ノ頒布トニ與テ力アリ又講習講話ハ以テ一層種肥ニ對スル感念ヲ強大ナラシメシガ如シ殊ニ種苗肥料ノ共同購入ハ一町村若クハ一郡ヲ區域トシテ農會ノ斡旋ヲ以テ實行セラル、ト顯繁ナリ

五、其他ノ事項

摸範農場ハ從來米作本位ニシテ殆ンド他ヲ顧ルノ遑アラサリシモ近時園藝其他副業ヲ加味シテ經營スルニ至レリ尙ホ郡情ニ依リ特殊ノ發達ヲナスベキ時勢ニ際セリ就中農談會ハ一町村ヲ區域トスルモノヨリモ寧ロ一部落限トシテ多數ノ箇所ニ開催シ又婦人農談會歡迎セラル、ニ至レリ講習會ハ長期短期共ニ不振ナリ苗代品評會米麥立毛園藝及小作米品評會等逐年隆盛トナレリ進農會ハ萎微不振ナリシモ近時競犁會ノ主腦トシテ活動シツ、アリ

農區駐在技師ト各郡農會トノ關聯ハ至テ圓滿ニシテ毎年四回農區協議會ヲ開催シ各幹事各技手並ニ郡立農

學校長等列席シ農區内ニ於ケル獎勵改良事項ニ付擬議シ會場ハ四郡輪番トシ農區駐在技師之ヲ率統ス又農業技手摸範農場技手ハ毎月定期業務報告書ヲ駐在技師ニ提出スルノ外時々業務日誌ノ檢閲ヲ受クルトセリ

之ヲ要スルニ農區ノ設定ト技師ノ駐在ハ農事獎勵上各般ヲ通シテ良好ノ經過ヲ示シ駐在技師ハ郡農會幹部ト相呼應シテ行進シ以テ農區内ニ於ケル斯業ノ面目ヲ一新スルヲ得タリ加之炭坑ノ命脈ハ前途甚タ短ク遠賀川改修工事ハ千町歩内外ノ耕地ヲ減少スベク當業者自カラ覺醒セサルベカラサルノ機運ニ到達セシモノト謂フベシ

第三 農 區

一、六大要項 六大要項ノ施設狀況ハ前年度詳カニ報告セシガ如ク既ニ普及ノ一段落ヲ看、特ニ塩水選、綠肥栽培ノ如キハ些ノ遺憾ナシト云フモ過言ニアラズ他ノ堆肥改良増製、石灰節用、稻正條植ノ如キニ至ツテモ一局部ニ於テ稍成績不良ノモノヲ看、緩急不用意ノモノヲ指摘シ得ザルニアラザルモ要スルニ獎勵ノ主旨ハ一汎ニ能ク覺認セラレタルモノト云フベシ然レモ尙ホ詳細ニ之レヲ云フキハ均シク之レヲ實施シタリト云フモ其間精粗アリ巧拙アルハ免レザル處ナルヲ以テ本年度ニ於テハ既往ノ成績ニ鑑ミ種々ノ調査ニ基ツキ益其ノ運用ノ圓熟ヲ期センヲ圖リタリ

一、摸範農場

本年度ニ於テ質疑、參觀、種苗ノ頒與等著シク増加シ特ニ農場所産ノ米、麥ハ殆ント

種子用トシテ當該郡下當業者ノ要求ニ應ズルニ至リタルガ如キハ以テ農場信用ノ益増進シタルヲ証スベシ而シテ本年度ヨリ各郡下ノ狀況ニ應ワテ簡易適切ナル試験作ヲ施設シ又縣農事試験場ノ囑托ニヨリ稻葉枯病試験ヲ各郡農場ニ設置シ得タリ

一、競犁、深耕品評會

深耕、精耨ハ農事改良ノ主要トスル所ナルモ之レガ實行ハ最モ至難ノ事ニ屬シ容易ニ其ノ決行ヲ看ルニ至ラズ然ルニ區下各郡ノ狀況ハ頗ル佳良ニシテ著シク其ノ功果ヲ舉グルニ至リタルハ畢竟各郡開催ノ競犁、深耕品評會等ノ獎勵ニ依ルヲ多シト云ハザル可カラズ本年度朝倉浮羽兩郡進農會主催ノ競犁會及精耨練習會ハ大ニ青年ヲ覺醒シ率テ精耨、深耕ノ普及ニ與カツテ力アリシヲ認ム特ニ縣進農會競犁會ノ三井郡模範農場内ニ於テ開催セラル、アリ縣下ノ精犁者悉ク之レニ會シ同時ニ又三井郡農會ハ其ノ競犁會ヲ舉行シ非常ノ盛況ヲ呈シ當業者堵ノ如ク集リ彼此參照ノ便ヲ得農區内ニ及ボシタル功果尠少ニアラズトス

一、進農會

本年度ニ於ケル進農會ノ著シキ事業ハ果實蔬菜ノ品評會 競犁會ノ開設ニアリ就中朝倉郡ニ於ケル果實蔬菜品評會ハ規模整頓セルヲ看タリ、本年度講習會、卒業生ニヨリ吸收シタル會員ハ朝倉郡百二十一名、浮羽郡三十名、三井郡十五名ナリトス各郡定期總會ニハ多數ノ會員來集シ年ト共ニ益堅實ナル發達ヲ看ル

一、郡農業技手新設

本年度ヨリ各郡ニ農業技手新設セラレ專ラ普通農事ノ指導ニ膺ルヲトナレリ

茲ニ於テ各技術者ノ分坦ヲ定メ同時ニ模範農場ハ助手ヲ廢シ主任技手ハ一ニ場務ニ執掌シ各其ノ業務ニ勵精スルヲ得獎勵ノ機關益具備スルニ至レリ爲メニ朝倉郡ノ犁具犁術ノ改良進歩、三井郡ノ選種、及ビ苗代ノ改良、浮羽郡ノ麥收豫防、鼠害驅除ノ如キ頗ル實効ノ舉リタルヲ認ム

一、共進會出品獎勵

明年度五月ヲ以テ本縣主催ノ下ニ開設セラルベキ九州沖繩聯合八縣共進會出品各種ノ農產物ニ就キテハ種子ノ選擇、栽培、收穫、調製等種々ノ事項ニ關シ各郡當局者ト呼應シ獎勵指導スル所アリタリ

一、小作米品評會

小作米品評會ノ開催益多キヲ加フルハ喜ブベキ現象ナリ本年度ニ於テ特ニ著シキモノハ浮羽郡大地主聯合シテ東部ハ吉井町ニ西部ハ田主丸町ニ於テ規模頗ル大ニシテ内容整備セル其ノ品評會ヲ開催シタルニアリ

一、農談會、長期農事講習會、害虫談話會

農談會ハ別表ノ如ク各郡ノ要求ニ應ジテ隨時各所ニ開催シ六大要項、共同苗代、等ハ勿論農村青年會ニ信用購買組合等ノ組織並ビニ副業ノ開發、園藝業ノ創設等ニ關シテハ特ニ獎勵スル所アリタリ又長期講習會ハ各郡一回若クハ二回開設シ卒業生二百七十九名ヲ得害虫講話會ハ三回之ヲ開設シ四百六十五人ノ聽講者アルヲ得タリ

一、種子田、町村模範田、地主團體試作田、共同苗代田

町村模範田ハ町村ノ自治的經營ヲ取ラシムルヲ種子田ハ反別若クハ箇所ヲ増加シ共同苗代モ昨年度ヨリ其ノ數ヲ倍加シテ各郡拾ヶ所

以上トシ三井、朝倉郡地主團體試作田ハ盆地主勞働ノ美風ヲ舉ゲントシ前年度ニ比シ益良好ノ實蹟ヲ收ムルヲ得タリ其ノ他三井郡農事大會、浮羽郡ノ種苗交換會ハ實効愈著シク實ニ兩郡ニ於ケル農界ノ大機關タリト云フベシ

一、農區協議會及幹事會

農區內郡農會會長以下役員、技術員ヲ會合シ春秋二回協議會ヲ開キ又隨時農會幹事會ヲ開催シ諸般獎勵事項ニ關シ詳密ナル協議ヲ遂ゲ又意思ノ疏通ヲ圖リ農區內常ニ同一步調ヲ以テ獎勵、施設ニ當ラント企劃セリ

第 四 區

一、六大要項ノ獎勵

一、鹽水選

鹽水選ニ付テハ郡並ニ町村農會ヲ督勵シ或ハ食鹽及苦鹽汁ノ共同購入共同鹽水選ヲ行ハシメタル結果稻ニアリテハ四郡全部麥ニアリテハ三潞郡全部八女郡ハ耕作面積ノ八割五分ニ及ビ他ノ

二郡モ兩三年ヲ出デズ全部實行ノ域ニ達スルコト疑ナシ

二、稻正條植

各郡共ニ漸次實行面積ヲ増加シ八女郡ノ九割八分ヲ除キ他ハ全部實行セラル

三、綠肥栽培

六大要項中最モ困難ナル事業ニシテ小麥栽培面積増加ノ結果ハ綠肥栽培面積ヲ縮少シ各項中遲タトシテ進歩セズ管内ヲ通シ前年ニ比シ九厘ノ増加面積ヲ見ル

四、堆肥改良増製

堆肥ノ改良増製如何ハ農家經濟上大ナル關係ヲ有スルヲ以テ極力之ヲ勸奨シ一面ニハ山門八女兩郡ノ如ク堆肥舍新設補助規程ヲ設ケ獎勵シタル爲メ完全ナル堆肥舍ヲ増築シ本年度ニ於テ兩郡ヲ通シ延坪五百八十坪五ヲ新築スルニ至レリ三池郡ニテハ比較的堆肥舍ノ設備完全ナルヲ以テ各町村ニ品評會ヲ開キ主トシテ堆肥改良増製ノ必要ヲ知ラシメ好果ヲ收メツ、アリ

五、深耕

管内ノ耕地ハ概ネ土層厚ク且ツ其狀態最モ良好ニシテ深耕ノ効果著シキモ三潞山門三池等ノ平亘部ハ比較的耕牛馬飼育數少ク深耕ノ利ヲ闕却セントスルノ趨勢アルヲ以テ三潞郡ニテハ十八ヶ所八女郡ニテハ五ヶ村ニ三池山門ノ兩郡ハ各町村ニ深耕品評會ヲ開設シ其ノ利益ヲ示シ農家ノ反省ヲ促セリ茲ヲ以テ數年ヲ出テズ適當ノ耕土ニ達スルヲ疑ナカラシ

六、石灰節用

石灰節用ニ付テハ山門郡ハ先ニ節用規程ヲ發布シ施用量ヲ節減セシ爲メ綠肥ヲ多量ニ施シタル場台ノ外全ク施用セザルニ至レリ三潞三池ニアリテハ農家各自石灰過用ノ弊ヲ覺リ必要ノ場台ニ反當四五俵乃至六七俵ニ節用スルニ至レリ八女郡ハ從來盛ニ使用セシモ漸次減少シ本年度ニ於テ使用反別ハ田總面積ノ約三割四分ニ減少セリ

二、共同苗代

共同苗代ハ管内至ル處歡迎セラレ漸次箇所數ヲ増加シ管内ヲ通シ前年度ノ三十四ヶ所ニ對シ本年度ニ於テハ八十三ヶ所ヲ算スルニ至レリ加之共同心ヲ惹起シ共同耕作共同貯金等ヲナスニ至レリ

三、模範農場

模範農場ハ本縣立農事試驗場ニ於ケル成績確實ナルモノニ付キ專ラ經濟模範ヲ示セリ本年ハ稻開花ノ際暴風雨ノ災厄ヲ蒙リシモ之ヲ一般ノ稻田ニ比シ優ニ增收ヲ得タルヲ以テ益々農家ノ信用ヲ得參觀人ノ増加種子ノ配布交換等ノ請求渺カラズ

四、町村模範田

各町村一ヶ所以上ノ町村模範田ハ郡農會模範農場ト同ク成績頗ル良好ニシテ農家ハ肥料三要素配合ノ必要ヲ認ムルニ至レリ

第五 農 區

一、農事獎勵六大要項 正條植ハ實行歩合ノ進捗著シキモ距離不當ナリシカ指導ノ結果適當ノ距離ニ移植スルニ至レリ併シテ各郡共除草器ノ使用ハ大ニ増加セリ土地深耕ハ競犂會、犂使用傳習等ニ依リ進ミ堆肥舍増設ハ補助ノ結果進歩速ナリ其他何レモ年ト共ニ改良ノ實ヲ擧ケツ、アリ

一、模範農場ト近接農家トノ調和 企救郡模範農場ハ全郡足立村大字片野新町（農場所在地）農

家ト共同苗代ヲ實行シ尙農場主任ノ指導ニ基キ配合肥料ヲ各所有田地ニ施シ進シテ各農家共同整地、移植ヲ行ヒ正條植ヲモ容易ニ行ヒ農場備付改良農具使用ヲ自家ノ田地ニ試用シ夜間又ハ雨天等農閑ノ際農場ニ來リ學說ト實檢トヲ聞キ實地應用ヲ爲スニ至リ普通農家ト農場ト調和親密改良普及ノ實ヲ現ハシツ

ハアリ

一、軍隊農事教育

四十二年五月ヨリ引續キ小倉歩兵第十四聯隊ニテハ一ヶ月一回乃至二回農區駐在技術員出張簡易ニシテ直ニ應用ノ出來得ル作物栽培、動物飼養、農産製造等ヲ講話（農政、林政、農業法規ノ類講話セス）シ一般兵士ヘ農事知識ノ普通發達ヲ勉メツ、アリ比較的多數ナル農家出身者ニシテ家計上教育ヲ受ケ得サルモノモ軍隊ニ入リテ家業ノ教育ヲ受ケ非常ノ幸福ヲ得ツ、アリ

一、京都郡摸範農場立米

京都郡摸範農場收穫米ハ年々其多數ハ全郡豐津町在郷軍人ニ特賣シ來リシガ三木大佐ノ談ニ從來ノ實驗ニ依レハ普通農家又ハ商家ヨリ購入シタル米ハ一斗四舛ヲ一曰トシテ搗クトキハ三千五百杵ニテ上白米トナル併シテ一舛六合乃至一舛八合ノ減米ヲ來シ農場ノ米ハ一斗四舛ヲ上白米トスルニハ四千杵ヲ要スレトモ六合乃至七合ノ減米ニ過ギス故ニ一俵ニハ大ナル差アリ普通相場ヨリ二三十錢高價ト假定シテモ却テ利益ナリトテ大ニ信用ヲ博シ居レリ

一、犁ノ改良

京都郡ニテハ深耕上犁ノ改良必要ヲ感シ柏屋郡ノ持立犁ヲ購入シ教師ヲ聘シ春秋二季ニ各町村ニ出張傳習セシメタリ郡内大地主ハ大ニ歡迎シ進メデ金品ヲ寄附シ該事業ヲ助ケタリ

一、稻種子交換

京都郡農會ハ各町村稻種子交換ノ必要ヲ認メ獎勵ノ結果百一十一石八斗四舛ヲ交換セリ種子ハ郡内白川村城井村ニ於テ撰定セリ

講習講話

一、講習講話回数及聴講者左ノ如シ

計	第五農區 （ 京上郡 京都郡 企救郡 ）	第四農區 （ 三池郡 三瀨郡 山門郡 八女郡 ）	第三農區 （ 三井郡 浮羽郡 朝倉郡 ）	第二農區 （ 田嘉郡 嘉穂郡 鞍手郡 遠賀郡 ）	第一農區 （ 宗像郡 柏屋郡 筑紫郡 早良郡 糸島郡 ）	農 區 別	
						長期	講習
一四	三	一	五	一	五	回数	生徒數
六〇八	九一		二七九	六三	一七五	回数	生徒數
二	一	一	一	一	一	短期	講習
一一三	一	一	一	一三	一〇〇	回数	生徒數
一六	三	一	五	二	六	回数	計
七二一	九一	一	二七九	七六	二七五	回数	生徒數

計	農 區 名					害 虫 講		農 談		計	
	第一農區	第二農區	第三農區	第四農區	第五農區	回 數	來會者數	回 數	來會者數	回 數	來會者數
	糸島郡 早良郡 筑紫郡 柏屋郡 宗像郡	遠賀郡 鞍手郡 嘉穂郡 田川郡	朝倉郡 浮羽郡 三井郡	八女郡 山門郡 三潞郡 三池郡	企救郡 京都郡 築上郡						
三			三								
四 六 五			四 六 五								
二〇 七	一三	五二	七〇		七二						
三七、一〇五	一、三九八	八、〇六五	一三、九八七		二三、六五五						
二一〇	一三	五二	七三		七二						
三七、〇五七	一、三九八	八、〇六五	一四、四五二		一三、六五五						

雜之部

一、出張 場員出張延日數三千百七十七日ニシテ是レガ事項別左ノ如シ

事項 延日數

農事講習會 三六二

害蟲講習會 四

農談會 二三五

(農事調査及農事獎勵並ニ模範農
場模範田ノ監督實地指導其他)
二、五七六

一、印刷物

農事試驗成績

農事講習講義錄

害蟲講習講義錄

特有農產物調査

一、種畜種禽種苗配布其他

種別 件數

種豚配布 五拾二頭

一、職員

種禽配布 五百三十七羽
 種卵配布 二千百七十七個
 種苗配布 五百十八件
 質問應答 二百四十件
 文書收受 三千八百十九件
 文書發遣 三千七百三十件
 參觀 三千四百二十人

五百三十七羽
 二千百七十七個
 五百十八件
 二百四十件
 三千八百十九件
 三千七百三十件
 三千四百二十人

技師	全	全	全	全	全	全	全
場長	本場勤務	全	第二農區駐在	第三農區駐在	本場勤務	第一農區駐在	本場勤務

片田豐太郎	高石政次郎	南波清三郎	八木和一郎	西田豐次郎	毛利万太郎	田原進	半田彌藤次
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------

